

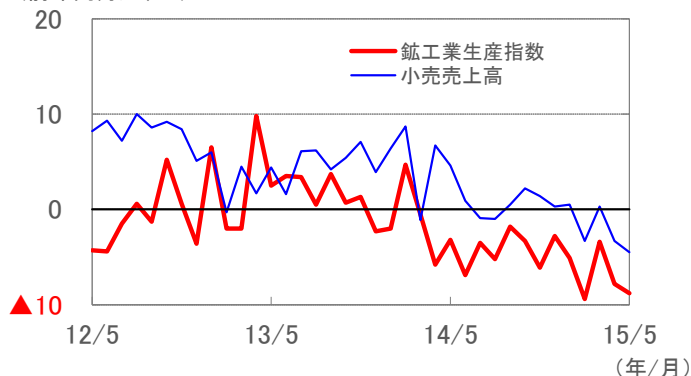
今日のトピック 最近の指標から見るブラジル経済(2015年7月) 物価抑制が好転のカギ

ポイント1 消費と生産の低迷が継続

物価高や利上げなどが影響

- 5月の小売売上高は前年同月比▲4.5%と、前月(同▲3.3%)からマイナス幅が拡大しました。物価高により実質賃金のマイナスが1月以降続いており(4月は前年同月比▲4.8%)、消費低迷の主な要因となっています。
- 5月の鉱工業生産指数は前年同月比▲8.8%で15カ月連続のマイナス、6月の輸出は同▲4.1%で11カ月連続のマイナスと、いずれも低迷が続いています。物価高や利上げによる内需の落ち込み、中国など海外景気の減速の影響が続いています。

鉱工業生産指数と小売売上高
(前年同月比、%)



(注) データは2012年5月～2015年5月。

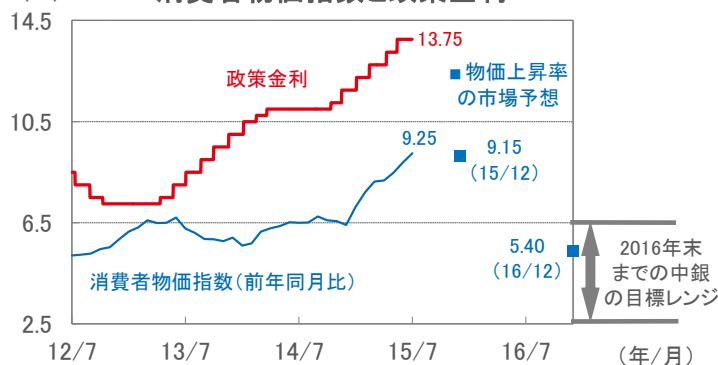
(出所) Bloomberg L.P. のデータを基に三井住友アセットマネジメント作成

ポイント2 中銀は利上げを継続

公共料金引き上げの影響などを警戒

- 7月前半の消費者物価指数は前年同月比+9.25%と上振れ、ブラジル中央銀行(以下、中銀)の目標(年+2.5%～+6.5%)上限を上回っています。電気料金の引き上げや干ばつによる食品の値上がりなどが物価高の主な要因です。
- 中銀は、昨年10月から今年6月まで、政策金利を6回連続で引き上げ13.75%としています。中銀は公共料金引き上げの影響から物価高が長期化することを警戒しており、市場では次回会合(7月28日～29日)でも0.50%の利上げを行うとの見方が優勢です。

(%) 消費者物価指数と政策金利



(注) 政策金利は2012年7月1日～2015年7月22日。

消費者物価指数は2012年7月～2015年7月(2015年7月は月前半)。

物価上昇率の市場予想は、中銀が7月20日に発表した調査結果。

2017年以降の物価目標レンジは、年+3.0%～+6.0%。

(出所) Bloomberg L.P.、ブラジル中央銀行のデータを基に三井住友アセットマネジメント作成

今後の展開 利上げで一部の物価は落ち着いており、経済・政治情勢の好転に期待

- 景気低迷下でも、利上げと財政緊縮を続けざるを得ない状況です。最近の世論調査では、ルセフ政権への支持率が1桁に低下しています。22日には、政府が景気下振れによる税收減などを理由に、今年の財政収支目標(プライマリー収支)をGDP比+1.1%から同+0.15%に引き下げました。

- 政府・中銀の政策に手詰まり感が強く、当面ブラジルレアルは上値の重い展開が続きそうです。ただし、これまでの利上げの効果などから一部の物価が落ち着いているほか、市場の2016年末の予想が低下しつつあります。物価の落ち着きから経済・政治情勢が好転する期待が高まれば、レアルの下支えになると期待されます。

ここも チェック!

2015年07月13日 「ブラジルの物価」が安定の兆し(ブラジル)

2015年06月17日 最近の指標から見るブラジル経済(2015年6月)

■当資料は、情報提供を目的として、三井住友アセットマネジメントが作成したものです。特定の投資信託、生命保険、株式、債券等の売買を推奨・勧誘するものではありません。■当資料に基づいて取られた投資行動の結果については、当社は責任を負いません。■当資料の内容は作成基準日現在のものであり、将来予告なく変更されることがあります。■当資料に市場環境等についてのデータ・分析等が含まれる場合、それらは過去の実績及び将来の予想であり、今後の市場環境等を保証するものではありません。■当資料は当社が信頼性が高いと判断した情報等に基づき作成しておりますが、その正確性・完全性を保証するものではありません。■当資料にインデックス・統計資料等が記載される場合、それらの知的所有権その他の一切の権利は、その発行者および許諾者に帰属します。■当資料に掲載されている写真がある場合、写真はイメージであり、本文とは関係ない場合があります。